

めぐりつと紫波

[Vol.58] 令和3年3月24日

発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL019-671-2244 FAX019-671-2243

E-mail miraiken@shiwa-mirai.com

2021環境・循環基本計画がスタートします

平成12(2000)年、紫波町では「すべては未来の子どもたちのために」と銘打って、「新世紀未来宣言」を発表しました。「紫波の環境を、より良い姿で百年後の子どもたちに残し伝えていきます」としたこの宣言後、目標年度を定めた将来の町のあるべき姿を実現することを目的として「環境・循環基本計画」を策定し、様々な取り組みを実践してきました。

そして2021年は今までの取り組みと課題、環境問題の現状を踏まえ、次なる目標を見据えた新しい環境・循環基本計画がスタートします。

4つのまちづくり（方針）

○資源循環のまちづくり

未利用資源を有効に活用して、循環型社会の構築を強化していきます。
焼却に依存するごみ処理からの脱却をさらに進めます。

○環境創造のまちづくり

動植物と人間が共に暮らすことができる地球環境に配慮した取り組みを進めていきます。
安全、安心に暮らすことができる生活環境づくりを進めていきます。

○環境学習のまちづくり

地元の環境を知り、環境問題が身近にあることに気づき、守っていく意識の啓発を継続して行っていきます。
世代間交流を通じて伝統・文化を学び、生活に活かしながら、後世への継承を進めます。

○交流と協働のまちづくり

住民、事業所、環境団体・町(行政)の地域内ネットワークを密にし、それぞれの立場からまちづくり事業を進めていく協働による地域づくりを進めていきます。
町の環境に関する取り組みを積極的に情報発信し、交流を通じて環境に共感する人々の輪を広げていきます。

本計画と関連の深い
SDGsのゴールのアイコン

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



これまで、環境・循環基本計画に沿った住民参加の環境美化活動や環境団体による環境学習の推進、3R 推進の啓発活動などにより、住民の環境・循環への意識が向上し、関心も高まってきました。

一方、まだまだ課題もあります。今号では「資源循環のまちづくり」の施策項目のひとつ「資源の消費を抑え、環境負荷を減らす」についてまとめてみました。

未来への取り組み 資源の消費を抑え、環境負荷を減らす

◎現状と課題

紫波町では住民総参加型の環境活動を展開し、ごみ分別の徹底とリサイクル運動の推進により意識が高まっている。

そうした中、新型コロナウイルス感染症対策による新しい生活様式が広がることにより、普段の生活ごみが増えていくことが避けられなくなっている。

◎行動の方針

焼却ごみ 10%削減を目指す

住民一人ひとりが3R（リデュース、リユース、リサイクル）を心がけ、ごみの減量化と資源の循環を推進し、10年後に焼却ごみ10%削減を目指す。

◎未来への取り組み

- ・使い捨てに頼りすぎない生活を推進する。
- ・無駄なものは購入しない生活を推進する。
- ・再生品を積極的に購入する。
- ・ごみの分別・減量意識を向上させる。
- ・資源回収団体の育成を継続する。

